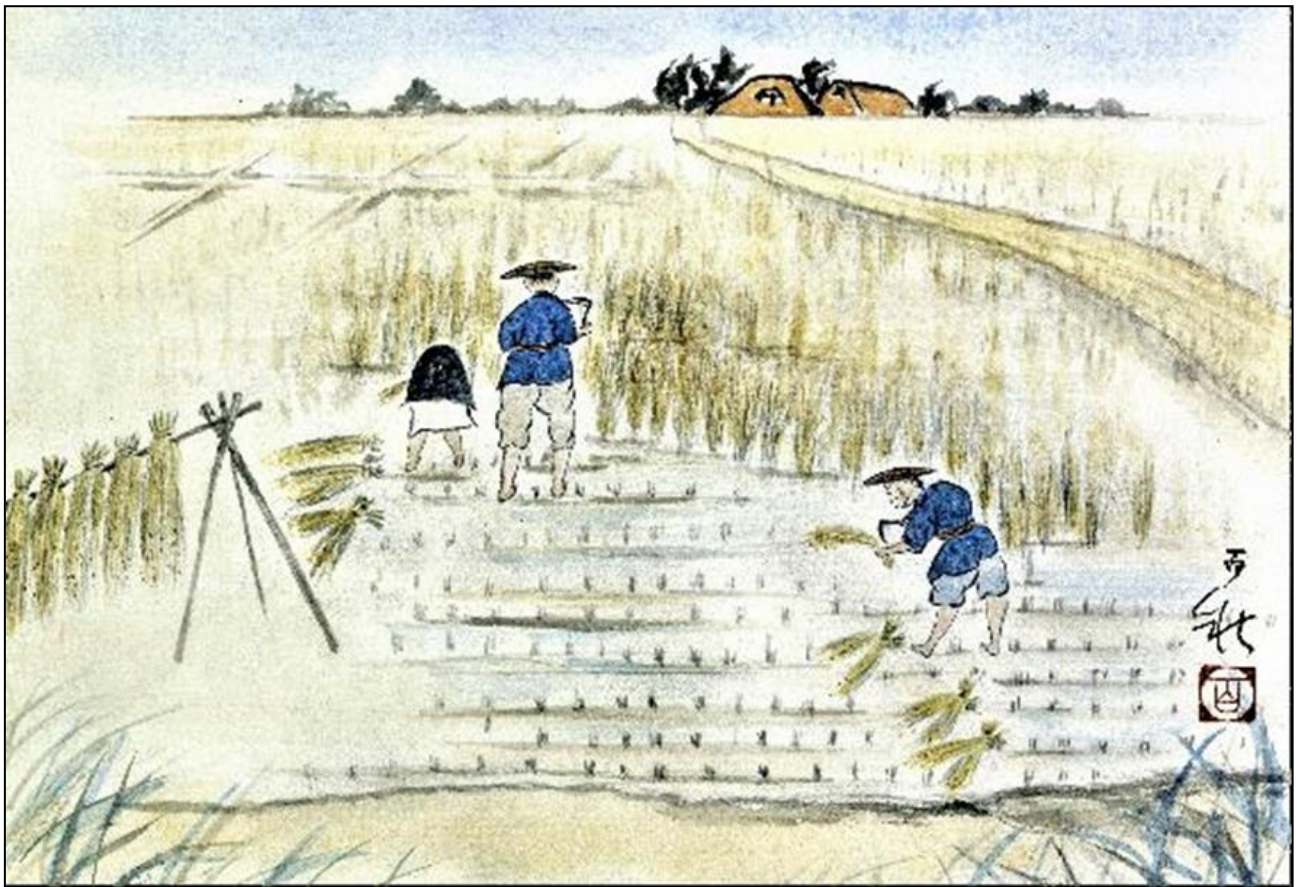


蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

## 第12回 昔の米づくりと農具のうぐ その2



今回のおうちミュージアムは、第 11 回「昔の米づくりと農具のうぐ」に引き続き、米づくりの手順てじゆんと道具しょうかいについて紹介します。

# ① 米づくりの手順と道具(その2)

8 除草(田んぼに生える草を取り除きます。)

除草機(草を取り除く道具)

暑いなかで腰を曲げながら草を取るの、とても大変です。すこしでも楽に作業ができるように、立ったまま使える除草機が考えられました。いずれも棒の先にさまざま形の道具が付いています。



八反取り(草を取り除く道具) 長さ 約34cm、幅 約17cm  
小判型の道具の裏にはたくさんのツメがあり、これで田んぼの土を前後にこすりながら、前に進むことで除草しました。



回転式除草機(草を取り除く道具) 長さ 48cm、幅 約20cm  
たくさんのトゲがついた車輪を回転させながら、田んぼの中を進みます。トゲが田んぼの土を掘り起こすことで除草しました。

間に稲株をとおします



株間除草機(草を取り除く道具) 長さ 約50cm、幅 約31cm  
上で紹介した2つの除草機では、稲株を植えた列の間しか除草できませんでした。この株間除草機では、車輪の羽根の間に稲株をとおすことで、稲を傷つけずに除草することができました。

9 土用干し(田んぼから一週間ほど水を抜いてから、また水を入れます。)

10 出穂(成長した稲から穂が出ます。)

11 落水(田んぼから水を抜きます。)

## 12 稲刈(稲を刈り取ります。)

人力稲刈機(稲を刈る道具) 柄の長さ 約113cm、刃先 約47cm  
機械を稲株に押し当てることで稲を刈ります。柄の下についているレバーを引くことで鎌が動き、切った稲を手前にまとめることができました。

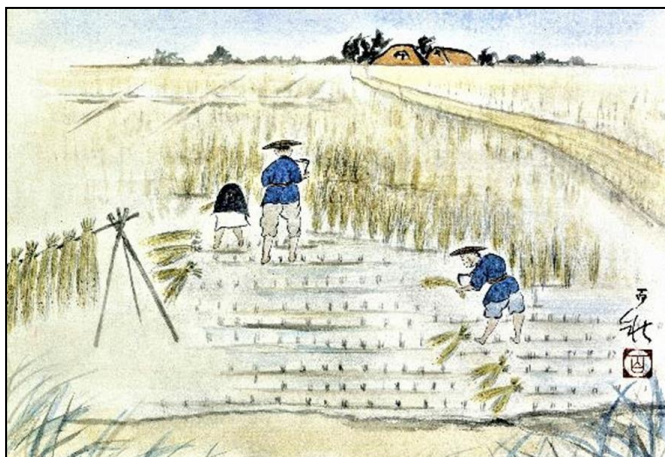


田舟(物を運ぶ道具) 長さ 約175cm、幅 約75cm、高さ 約21cm  
蟹江町には、水気が多い泥土の田んぼがたくさんありました。そのような田んぼで物を運ぶのは大変なので、田舟に稲などの物を入れて泥の中を引っ張りしました。



たぶね  
田舟

## 13 稲干し(稲を干して乾かします。)



鎌を使って稲刈をする人たちの左には、稲束が干してあります。



## 14 脱穀(乾かした稲から「籾」を取り分けます。)

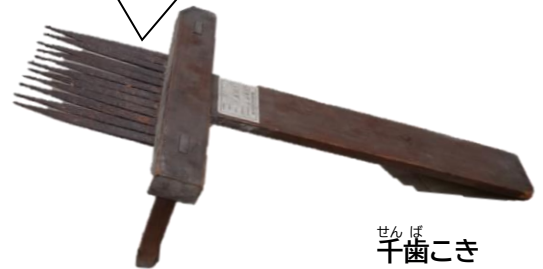
千歯こき(稲から「籾」を取り分ける道具)

台の長さ 約62cm、幅 約34cm、刃先 約19cm

木の台には鉄の歯が並んでいます。櫛ですくように、刈り取った稲束を引っ掛けることで稲から籾をこき落としました。



鉄の歯の間に稲束を引っ掛けて籾をこき落とします



千歯こき

足踏脱穀機(稲から籾を取り分ける道具)

長さ 約68cm、幅 約64cm、高さ 約100cm

足元のペダルを踏むことで針金のついたドラムが回り、その上に稲束を押し当てることで、籾を脱穀します。上に伸びている針金は、籾が飛び散らないようカバーをかけるためのものです。

③ ペダルを踏み続けるとドラムも回り続けます

④ 稲束を針金に当てて脱穀します

① 矢印の向きに手でドラムを回します

② 足元のペダルをタイミングよく踏みます



足踏脱穀機

15 <sup>もみ ほ</sup> 粳干し(<sup>だっこく</sup> 脱穀した<sup>もみ</sup> 粳を<sup>かわ</sup> 乾かします。)

16 <sup>もみ</sup> 粳すり(<sup>もみがら と のぞ</sup> 粳殻を取り除きます。)

<sup>どうす もみがら</sup> 土臼(粳殻をとる道具)

長さ 約80cm、<sup>はば</sup> 幅 約80cm、高さ 約76cm、ハンドルの長さ 約115cm  
<sup>どうす</sup> 土臼の上から<sup>もみ</sup> 粳を入れ、ハンドルを押し引きすることで臼の上半分が回ります。  
臼に入れた粳は中でこすられて<sup>から と</sup> 殻が取れ、<sup>げんまい もみがら</sup> 玄米と粳殻に分かれて出てきます。



<sup>もみ</sup> 粳を入れる人、<sup>どうす</sup> 土臼を回す人、<sup>すり</sup> すり終えた<sup>げんまい もみがら</sup> 玄米と粳殻を集める人、それぞれ<sup>やくわり</sup> 役割が分かれています。

② ハンドルを押し引きして<sup>うす</sup> 臼の上半分を回します

① <sup>もみ</sup> 粳を入れます

③ <sup>よこ</sup> 横から<sup>げんまい もみがら</sup> 玄米と粳殻に分かれて出てきます



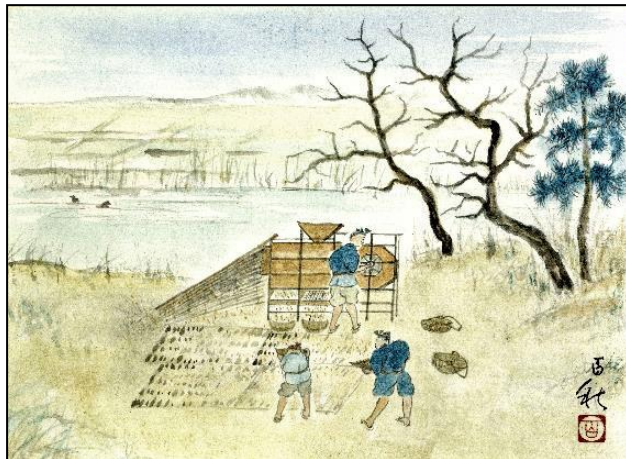
<sup>どうす</sup> 土臼

# 17 選別(粒のそろった玄米だけを選びます。)

唐箕(玄米と籾殻に分ける道具)

長さ 約94cm、幅 約55cm、高さ 約117cm

ハンドルを回すと中で羽が回り、風をおこします。上から玄米と籾殻をまとめて入れてからハンドルを回すことで、風の力によって分けます。重い玄米は手前に落ち、軽い籾殻は奥から出ていきます。



テンポよく唐箕を回して、玄米と籾殻に分けていきます。

① 玄米と籾殻をまとめて入れます

④ 軽い籾殻はここから出ます

② ハンドルを回します



唐箕

③ 重い玄米はここから出ます

まんこくとおし(粒つぶのそろった玄米げんまいとそれ以外わに分ける道具)

長さ 約155cm、幅はば 約59cm、高さ 118cm

網目あみめの細かさを利用して、粒つぶのそろった玄米げんまいだけわを分けることができます。斜めななに架かけられた網の上から玄米げんまいを通すことで、割われた玄米や土臼どうすですれ残のこった粉もみを取とり除のぞきます。

① 玄米げんまいを入れます

② 割われて小さくなった玄米げんまいが集まります

③ 粒つぶのそろった玄米げんまいが集まります

④ 土臼どうすですれ残のこった粉もみが集まります

まんこく  
方石とおし



18 出荷(粒のそろった玄米を俵に詰め、出荷します。)



きちんと選別された玄米は、ワ  
ラで作られた俵に詰めて出荷さ  
れました。

19 種籾の保管(次の年に植える種籾を大切に保管します。)

種壺(籾を保管する道具) 直径 約35cm、高さ 約48cm

次の年に植える種籾などを保管します。壺の口にフタをして覆いをかぶせ、さら  
にヒモなどで固く閉めておくことで、ネズミなどの害を防ぐことができました。



種壺

陶器でできているため、ネズミなどに  
かじられることはありません。

一年間のサイクルを終えると、また米づくりを行うための準備が始まります。